



上野宿

中町廻りが宿の中心。西側に本陣、東側に脇本陣、問屋場があった。



上野神社（祭神八幡大神）

国司北畠氏の祈願所として創建（年代不詳）永禄年間（1558-70）信長は太刀、鎧を奉納。慶長6年（1601）分部光嘉5万石の黒印寄進紀州領になってから徳川頼宣社殿造営。（延宝8年、宝永5年）



上野城址（本丸跡）

永禄11年（1568）信長の弟信包が養子となった長野氏の拠点。元亀元年（1570）信包が津城の仮城として築城。天正8年（1580）津城が完成したので分部光嘉が城代となる。文禄4年（1595）光嘉一万石の城主となる。元和5年（1619）城主分部光信は江州大溝藩へ移封となり廃城となる。



光勝寺

慶長6年（1601）分部光嘉が長子光勝の菩提寺として円光寺正門東に分院を建てる。宝暦元年（1751）この地に移り光勝寺と改める。明治30年焼失、再建。



〔弥次・喜多〕
栗真小川 名物：まんじゅう
"から尻のうまい名代をたび人に
くひっかせんと貰えるまんじゅう"



〔弥次・喜多〕

上野辺りに来ると白子から後をつけて来た男に御狂名を聞かれたので"十辺舎一九"と答える。男は"胡麻汁"雲津に帰る途中という。



○ 釜冠地藏
宮参りの無事祈願
茶を接待していた
休憩所

田中地藏

田中橋

本福寺

千里駅

上野神社

円光寺

弘法井戸

豊津上野駅

円光寺（万松山）

延文3年（1358）栗真庄中山村に後光厳天皇勅願の道場として創建。元亀年中（1570頃）ここ上野に移り、城主分部氏の菩提寺となる。後、紀州藩の祈願所となる。



弘法の井戸

その昔旅の高僧がこの辺りの一軒の農家に立ち寄り水を所望した。農家の主人は遠く迄行き水を汲んできた。高僧はここを掘りなされと錫杖をさした。掘ってみると清水がでた。高僧は弘法大師で、村人はお堂を建て祀った

さかかわ

逆川神社（祭神 伊邪那美命、豊玉毘賣命）

詳細不明。第68代後一条天皇の時創建？。この辺り川が逆に、西に向かって流れていることから逆川といわれる。昭和の始め頃まではしもやけの宮と知られ、境内の弁天池、逆川の水を土用丑に日に汲み取り手足につけるとしもやけ、下の病が治るといわれ遠くから汲みにきたという。



〔弥次・喜多〕

一身田の御堂見ながら
"おまな板なをしに鯉のひれふるは
これ佐用姫の石井でんかも"

江戸橋常夜灯（伊勢別街道の追分）

安永6年（1777）嶋田氏個人寄進。津市内最古。春日型、高さ5.4m。

